

学科到達目標

到達目標

- A.工学基礎知識：電子制御に関連する工学技術を学ぶために必要な数学，自然科学などの基礎知識を身につけている。
- B.専門知識：電子制御に関連する専門知識と技術を身につけている。
- C.問題解決能力：電子制御に関連する知識と技術を活用し，問題解決に取り組める。
- D.教養：豊かな教養を持ち，正しい倫理観を身につけ，技術が社会や自然環境に及ぼす影響に配慮できる。
- E.コミュニケーション能力：自分の考えを論理的に他人に伝達できるとともに，英語によるコミュニケーションの基礎を身につけている。
- F.社会性：キャリア教育や課外活動を通じて自主性，責任感，公共心を身につけている。

卒業認定の方針に定める知識・技術を修得するために必要な授業科目の流れ

【実務経験のある教員による授業科目一覧】

学科	開講年次	共通・学科	専門・一般
電子制御工学科	本4年	共通	専門
電子制御工学科	本4年	共通	専門
電子制御工学科	本4年	共通	専門
電子制御工学科	本5年	共通	専門
電子制御工学科	本5年	共通	専門
電子制御工学科	本5年	共通	専門
電子制御工学科	本5年	共通	専門

科目区分		授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数																担当教員	履修上の区分																					
						1年				2年				3年				4年						5年																				
						前		後		前		後		前		後		前		後				前		後																		
						1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q			1 Q	2 Q	3 Q	4 Q																	
一般	必修	国語 1（R4削除）	101110	履修単位	3	<table><tr><td>2</td><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>																2	4																				森長新 一色誠子	
2	4																																											
一般	必修	国語 1	101111	履修単位	2	<table><tr><td>2</td><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>																2	2																				沼田 真里	
2	2																																											
一般	必修	倫理（R4削除）	101210	履修単位	2	<table><tr><td>2</td><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>																2	2																				濱井 潤也	
2	2																																											
一般	必修	共生社会と倫理	101211	履修単位	2	<table><tr><td>2</td><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>																2	2																				濱井 潤也	
2	2																																											
一般	必修	地理	101220	履修単位	2	<table><tr><td>2</td><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>																2	2																				加地 至	
2	2																																											
一般	必修	保健体育 1	101511	履修単位	2	<table><tr><td>2</td><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>																2	2																				今城 英二	
2	2																																											
一般	必修	英会話 1	101710	履修単位	1	<table><tr><td></td><td></td><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>																		2																			ウルフ クリス トファ ー・オ ットー	
		2																																										
一般	必修	英語 1	101720	履修単位	4	<table><tr><td>4</td><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>																4	4																				福光 優 一郎,田 邊水江	
4	4																																											
一般	必修	リベラルアーツ演習	101910	履修単位	1	<table><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>																2																					平田 隆 一郎,野 田善弘 ,濱井 潤也,今 城英二 ,森長 新	
2																																												
一般	必修	数学 A－1	102310	履修単位	4	<table><tr><td>4</td><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>																4	4																				古城 克 也,若 本豊田 ,高田 芽味	
4	4																																											
一般	必修	数学 B－1	102350	履修単位	2	<table><tr><td>2</td><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>																2	2																				松田 一 秀,高 田 芽 味,五 味昭 秀,渡 辺一 生	
2	2																																											

一般	必修	物理 1	102410	履修単位	2	22																大村 泰 朝日 太郎	
一般	必修	化学 1 (R04削除)	102430	履修単位	3	42																矢野 潤 柴田 亮	
一般	必修	化学 1	102431	履修単位	2	22																朝日 太 郎	
一般	選択必修	音楽 (後期)	104610 (後期)	履修単位	1	2																長野 由 記子	
一般	選択必修	音楽 (前期)	104610 (前期)	履修単位	1	2																長野 由 記子	
一般	選択必修	美術 (後期)	104620 (後期)	履修単位	1	2																齊藤 栄 嗣	
一般	選択必修	美術 (前期)	104620 (前期)	履修単位	1	2																齊藤 栄 嗣	
一般	必修	特別活動	109010	履修単位	0	11																古城 克 也, 岩 本 豊 田 芽 味, 今 城 英 二, 森 長 新	
専門	必修	電気基礎 1	130101	履修単位	2	22																眞鍋 知 久	
専門	必修	情報リテラシー	130102	履修単位	1	2																松木 剛 志	
専門	必修	情報処理 1	130103	履修単位	1	2																占部 弘 治	
専門	必修	電気基礎演習 (R6削除)	130104	履修単位	1.5	1.51.5																占部 弘 治, 永 井 駿也	
専門	必修	電子基礎実習 (R6削除)	130105	履修単位	1.5	1.51.5																松友 真 哉, 松 木 剛志	
専門	必修	データサイエンス	130106	履修単位	1	2																占部 弘 治	
専門	必修	電子基礎実習A	130107	履修単位	1.5	1.51.5																占部 弘 治, 永 井 駿也	
専門	必修	電子基礎実習B	130108	履修単位	1.5	1.51.5																松友 真 哉, 松 木 剛志 眞鍋 知久	
専門	選択	ものづくりとAI (基礎)	130969	履修単位	1	集中講義																桑野 紘 範	

新居浜工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	地理
科目基礎情報						
科目番号	101220			科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電子制御工学科			対象学年	1	
開設期	通年			週時間数	2	
教科書/教材	『地理総合 世界に学び地域へつなぐ』（二宮書店）『新詳 高等地図帳』（帝国書院）					
担当教員	加地 至					
到達目標						
1. 一般図・主題図・グラフ・統計・写真などの資料を読み解き、正しい地理的情報を収集・分析する技能を身につける。 2. 世界・日本の諸地域の特色ある自然環境や生活文化を理解し、国際的な視野に立つて多様性と共生を考えることができる。 3. 地理的なものの見方や考え方をもとに、身近な地域から地球的規模の諸課題について公正に判断し、行動できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
到達目標1	設定した目的に沿って、統計データを入手・処理し、主題図やグラフに表現することができる。		一般図・主題図・グラフ・統計・写真などの資料を読み解き、正しい地理的情報を得る。		資料を読み解くことに無関心で、自ら進んで地理的情報を得ようとしない。	
到達目標2	世界・日本の諸地域について旺盛な好奇心をもち、地域社会・国際社会のために貢献しようとする。		世界・日本の諸地域の自然環境や生活文化を理解し、国際的な視野で多様性と共生に関心をもつ。		世界と日本の諸地域における自然環境・産業・生活文化の多様性を理解しようとしない。	
到達目標3	身近な地域から地球的規模の諸課題を理解し、自覚的な生き方や行動について考えようとする。		地理的なものの見方や考え方をもとに、多様なスケールで諸課題について考えることができる。		地理的なものの見方や考え方が習得できておらず、現代の諸課題について考えることができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教養 (D)						
教育方法等						
概要	「地理」では、ある広がりをもった地域や場所について考えます。主要なテーマは、地形や気候などの自然、農業・工業といった産業、言語・宗教・衣食住も含めた生活文化、現代社会が直面する諸課題です。					
授業の進め方・方法	講義形式で行います。					
注意点	然現象や社会的事象が生起する広がりや、日常接するごく狭い場所から地球規模までさまざまなものがあります。身近なことがらだけでなく、世界で起きていることにも想いをめぐらすことのできる豊かな想像力が必要です。					
本科目の区分						
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	地球上の緯度と経度・時差と標準時		1	
		2週	地図の図法・主題図とグラフ		1	
		3週	読図の基礎と演習		1	
		4週	領域と国家の結びつき		1..2	
		5週	変動帯とプレート		1.2	
		6週	河川がつくる地形と生活		1.2	
		7週	海岸の地形と生活		1.2	
		8週	中間テスト		テストを実施する	
	2ndQ	9週	大気循環と気候の地域性・気候区分		1.2	
		10週	熱帯・乾燥帯の自然環境と生活		1.2	
		11週	温帯・亜寒帯・寒帯の自然環境と生活		1.2	
		12週	農業の発展と生活文化		1,2	
		13週	工業・サービス業の発展と生活文化		1,2	
		14週	宗教・言語と生活文化		1,2	
		15週	期末テスト		テストを実施する	
		16週	テスト返却期間		1,2	
後期	3rdQ	1週	東アジアの生活文化		1,2	
		2週	ASEAN諸国・南アジアの生活文化		1,2	
		3週	イスラーム圏・アフリカの生活文化		1,2	
		4週	EUと周辺諸国・ロシアの生活文化		1,2	
		5週	アメリカ合衆国・カナダの生活文化		1,2	
		6週	ラテンアメリカの生活文化		1,2	
		7週	オセアニアの生活文化		1,2	
		8週	中間テスト		テストを実施する	
	4thQ	9週	環境問題と持続可能な社会		1,3	
		10週	資源・エネルギー問題		1,3	
		11週	人口・食料問題		1,3	
		12週	居住・都市問題		1,3	
		13週	日本の地形と気候の特色		1,3	

		14週	風水害・地震・津波・火山と防災	1,3		
		15週	期末テスト	テストを実施する		
		16週	テスト返却期間	1,3		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文社会科学	社会	社会	世界各地の人口、資源、産業の分布や動向、並びにそれらをめぐる地域相互の結びつき等について理解し、現代社会を地理的観点から説明できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
				人間と自然環境との相互作用を前提としつつ、民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
				近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。	2	
				帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。	2	
				第二次世界大戦以降、冷戦の展開と終結、その後現在に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。	2	
				19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。	2	
				これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにしつつ、より良いキャリア構築を含む生涯にわたる多様な自己形成に関する考え方、他者と共に生きていくことの重要性、及び望ましい社会や世界のあり方について考察できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
				自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理と基礎的な政治・法・経済の仕組みを理解し、現代社会の諸課題について考察できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16

				現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定し、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から多面的・多角的に考察、構想し、表現できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
--	--	--	--	---	---	---

評価割合

	試験	課題・発表・意欲		合計
総合評価割合	60	40	0	100
基礎的能力	60	40	0	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

新居浜工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	電気基礎 1	
科目基礎情報							
科目番号	130101			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	電子制御工学科			対象学年	1		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	電気基礎 1：実教出版						
担当教員	眞鍋 知久						
到達目標							
1. 抵抗の直並列接続、電圧の分圧、電流の分流などの基本回路計算ができること 2. 分流器や倍率器、ブリッジについての基本事項が理解できていること 3. 電力と電力量についての基本計算が計算できること 4. さまざまな回路解法を用いて電気回路の電流電圧を算出できること							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	テキストやノートを見ずに自分自身の力だけで演習問題を解くことができる。			テキストやノートを見ながら演習問題を解くことができる。		演習問題を解くことができない。	
評価項目2	テキストやノートを見ずに自分自身の力だけで電氣的な特徴を説明できる。			テキストやノートを確認しながら，電氣的な特徴を説明できる。		電氣的な特徴を説明できない。	
評価項目3	テキストやノートを見ずに自分自身の力だけで演習問題をテキストやノートを見ずに自分自身の力だけで電氣的な特徴を説明できる．解くことができる。			テキストやノートを見ながら演習問題を解くことができテキストやノートを確認しながら，電氣的な特徴を説明できる．る。		電氣的な特徴を説明できない。	
評価項目4	テキストやノートを見ずに自分自身の力だけで演習問題を解くことができる。			テキストやノートを見ながら演習問題を解くことができる。		演習問題を解くことができない。	
学科の到達目標項目との関係							
専門知識 (B)							
教育方法等							
概要	直流電流の基本的な回路計算を習得し、次に電気・電子・磁気に関する諸現象を学習することにより電気の最初の基礎力を身につけることを目標とする						
授業の進め方・方法	到達目標 1. 抵抗の直並列接続、電圧の分圧、電流の分流などの基本回路計算ができること 2. 分流器や倍率器、ブリッジについての基本事項が理解できていること 3. 電力と電力量についての基本計算が計算できること 4. さまざまな回路解法を用いて電気回路の電流電圧を算出できること						
注意点	この科目は電気系科目の基礎となるため、しっかりと学習が必要です。実験や次年度に続く授業で困らないようにしっかり身につけましょう。常に予習、復習を心がけ、わからないところが出てきたら早めに対処しましょう。						
本科目の区分							
Webシラバスと本校履修要覧の科目区分では表記が異なるので注意すること。 本科目は履修要覧(p.9)に記載する「④選択科目」である。							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス/電気に関する中学の復習《講義》		1. 電気について		
		2週	電気の基礎Ⅰ：電子・電荷と電流/抵抗器		1 電気の基礎		
		3週	抵抗器Ⅰ：直列接続の合成抵抗，並列接続の合成抵抗		1 抵抗の接続		
		4週	抵抗器Ⅱ：直並列接続の合成抵抗		1. 抵抗の接続		
		5週	電気の基礎Ⅱ：電圧，電流，抵抗：電圧，電位，電圧降下/オームの法則		1 電気の基礎		
		6週	回路解法Ⅰ：直列回路，並列回路の電流，電圧の算出		1,4 回路解法		
		7週	回路解法Ⅱ：直並列回路の電流，電圧の算出		1,4 回路解法		
		8週	総合演習Ⅰ・中間試験				
	2ndQ	9週	電気の基礎Ⅲ：キルヒホッフの法則		1 キルヒホッフ		
		10週	回路解法Ⅲ：キルヒホッフによる直列回路，並列回路の電流，電圧の算出		1,4 キルヒホッフ		
		11週	回路解法Ⅲ：キルヒホッフによる直列回路，並列回路の電流，電圧の算出		1,4 キルヒホッフ		
		12週	回路解法Ⅲ-2：キルヒホッフによる電流の算出，応用		1,4 キルヒホッフ		
		13週	回路解法Ⅲ-2：キルヒホッフによる電流の算出，応用		1,4 キルヒホッフ		
		14週	電気の基礎Ⅵ：形状による抵抗の算出		1 電気の基礎		
		15週	期末試験				
		16週	試験返却と考察				
後期	3rdQ	1週	電気の基礎Ⅴ：電力		3 電力		
		2週	電気の基礎Ⅵ：電池		1 電池の仕組み		
		3週	回路解法Ⅳ：テブナンの定理		1,4 テブナン		

		4週	回路解法Ⅳ-2：テブナンの定理による回路解法	1,4 テブナン
		5週	回路解法Ⅳ-2：テブナンの定理による回路解法	1,4 テブナン
		6週	回路解法Ⅳ-3：テブナンの定理による回路解法 応用	1,4 テブナン
		7週	中間試験	1,2,3,4
		8週	電気の基礎Ⅶ：分流器と倍率器	2 電流計と電圧計の仕組み
	4thQ	9週	回路解法Ⅴ：重ね合わせの理	1,4 重ね合わせの理
		10週	回路解法Ⅴ-2：重ね合わせの理による回路解法	1,4 重ね合わせの理
		11週	回路解法Ⅴ-2：重ね合わせの理による回路解法	1,4 重ね合わせの理
		12週	回路解法Ⅴ-3：重ね合わせの理による回路解法 応用	1,4 重ね合わせの理
		13週	回路解法Ⅴ-3：重ね合わせの理による回路解法 応用	1,4 重ね合わせの理
		14週	回路解法Ⅵ：応用問題	1,4
		15週	期末試験	1,2,3,4
		16週	試験返却と試験解説	1,2,3,4

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	自然科学	物理	物理	導体と不導体の違いについて、自由電子と関連させて説明できる。	3	前1
				オームの法則やキルヒホッフの法則を用いて、電圧、電流、抵抗を求めることができる。	3	前2,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,後2,後3,後4,後5,後6,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14
				抵抗を直列接続及び並列接続したときの合成抵抗を求めることができる。	3	前3,前4,前6,前7,前10,前11,前12,前13,後3,後4,後5,後6,後9,後10,後11,後12,後13,後14
				ジュール熱や電力に関する計算ができる。	3	後1,後14
専門的能力	分野別の専門工学	電気・電子系分野	電気回路	電荷と電流、電圧、電力の関係を理解し、回路の計算に用いることができる。	4	前2,前6,前7,前10,前11,前12,前13,後3,後4,後5,後6,後9,後10,後11,後12,後13,後14
				合成抵抗や分圧・分流の考え方をを用いて、回路の計算ができる。	4	前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,後2,後3,後4,後5,後6,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14
				キルヒホッフの法則や重ねの理等の定理を理解し、回路の電圧や電流、電力を計算できる。	4	前9,前10,前11,前12,前13,後3,後4,後5,後6,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14

評価割合

	試験	課題	合計
総合評価割合	80	20	100
基礎的能力	0	0	0
専門的能力	80	20	100
分野横断的能力	0	0	0

新居浜工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	情報リテラシー
科目基礎情報						
科目番号	130102			科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電子制御工学科			対象学年	1	
開設期	前期			週時間数	2	
教科書/教材	イチからしっかり学ぶ！ Office基礎と情報モラル（Microsoft365・Office2021対応）（noa出版）、R03情報モラル教材（K-SEC開発教材）					
担当教員	松木 剛志					
到達目標						
1. 計算機演習室のコンピュータにログオン、ログアウトができ、パスワードの変更ができること。 2. WebClass・Microsoft365 のシステムにログオン、ログアウトができ、パスワードの変更ができること。 3. キーボードから文字の入力がスムーズにできること。 4. ワープロソフトを用い、簡単な図表入りの書類が作成できること。 5. 情報に関する法律について学び、個人情報や著作権の重要性について理解すること。 6. SNSを利用する場合や情報を送受信する場合のモラルについて理解すること。 7. コンピュータウイルスやセキュリティホールについて、その危険性や対策方法を理解すること。 8. ネットワーク社会におけるセキュリティ技術について理解し、自らを守る方法を知ること。 9. ネットワーク上での犯罪や有害情報について知ること、高度情報化社会の負の面について理解すること。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目 1	演習室のコンピュータにログオン、ログアウトができ、堅牢なパスワードに変更ができる		演習室のコンピュータにログオン、ログアウトができ、パスワードの変更ができる。		演習室のコンピュータにログオン、ログアウトができ、パスワードの変更ができない。	
評価項目 2	WebClassとMicrosoft365にログオン、ログアウトができ、堅牢なパスワードに変更ができる		WebClassとMicrosoft365にログオン、ログアウトができ、パスワードの変更ができる。		WebClassやMicrosoft365にログオン、ログアウトができ、パスワードの変更ができない。	
評価項目 3	タッチタイピングによりキーボードから文字の入力がスムーズにできる。		キーボードから文字の入力がスムーズにできる。		キーボードから文字の入力がスムーズにできない。	
評価項目 4	ワープロソフトを用い、図表入りの書類が自由に作成できる。		ワープロソフトを用い、簡単な図表入りの書類が作成できる。		ワープロソフトを用い、簡単な図表入りの書類が作成できない。	
評価項目 5	情報に関する法律について学び、個人情報や著作権の重要性について理解して説明することができる。		情報に関する法律について学び、個人情報や著作権の重要性について理解できる。		情報に関する法律について学び、個人情報や著作権の重要性について理解できない。	
評価項目 6	SNSを利用する場合や情報を送受信する場合のモラルについて理解でき、適切な行動ができる。		SNSを利用する場合や情報を送受信する場合のモラルについて理解できる。		SNSを利用する場合や情報を送受信する場合のモラルについて理解できない。	
評価項目 7	コンピュータウイルスやセキュリティホールについて、その危険性や対策方法を理解でき、有効な対策を実施できる。		コンピュータウイルスやセキュリティホールについて、その危険性や対策方法を理解できる。		コンピュータウイルスやセキュリティホールについて、その危険性や対策方法を理解できない。	
評価項目 8	ネットワーク社会におけるセキュリティ技術について理解し、自らを守る方法を理解して実施できる。		ネットワーク社会におけるセキュリティ技術について理解し、自らを守る方法を理解できる。		ネットワーク社会におけるセキュリティ技術について理解し、自らを守る方法を理解できない。	
評価項目 9	ネットワーク上での犯罪や有害情報について知ること、高度情報化社会の負の面について理解して適切な行動ができる。		ネットワーク上での犯罪や有害情報について知ること、高度情報化社会の負の面について理解できる。		ネットワーク上での犯罪や有害情報について知ること、高度情報化社会の負の面について理解できない。	
学科の到達目標項目との関係						
工学基礎知識 (A) 教養 (D)						
教育方法等						
概要	コンピュータ操作の基本、キーボード操作、ワープロソフトの使い方などのコンピュータリテラシーや、インターネット利用する上でのモラルや危険性、高度情報化社会における法律について学ぶことを目的とする。					
授業の進め方・方法	これからの高度情報化社会を生きていくには単にコンピュータが使えるだけではなく、セキュリティ対策やモラルがとても大切になります。中学校の技術家庭で学んだことに加えて、是非この授業で高度情報化社会に参画する姿勢を身につけてください。 計算機演習室での演習を重視し、座学による講義も取り混ぜて行います。					
注意点	WebClassやMicrosoft365は、本校における多くの授業が活動において利用されているので、操作方法などを早く覚えて積極的に活用してください。 事前学習：教科書や配布資料をよく読み、コンピュータの操作に早く慣れてください。 自己学習：授業時間外でも演習室を利用できるので、いつでも自主的に実施してください。 関連科目：電子制御工学科では、データサイエンスや情報処理などの科目に関連していく内容となります。					
本科目の区分						
Webシラバスと本校履修要覧の科目区分では表記が異なるので注意すること。 本科目は履修要覧(p.10)に記載する「④必修科目」である。						
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	演習室ガイダンス（P C・WebClass・Microsoft365） Microsoft365の多要素認証の設定		1,2	

		2週	WebClass・Microsoft365・Teams の使い方 パスワードの管理 インターネット検索・タイピング練習	2,3
		3週	情報モラル1（個人情報・知的財産権）	5
		4週	情報モラル2（SNSの利用・ネットマナー）	6
		5週	ワープロソフトの使い方1、タイピング練習	3,4
		6週	情報モラル3（情報の送受信と信ぴょう性・フェイクニュース）	6
		7週	中間試験期間	
		8週	コンピュータの構成とOS メールの送受信	
	2ndQ	9週	ワープロソフトの使い方2、タイピング練習	3,4
		10週	情報セキュリティ1（情報セキュリティの定義・ウィルス対策）	7,8
		11週	情報セキュリティ2（スパイウェア・不正アクセス）	7,8,9
		12週	ワープロソフトの使い方3、タイピング練習	3,4
		13週	情報セキュリティ3（ネット詐欺・有害情報・暗号化）	8,9
		14週	情報セキュリティ4（サイバー攻撃・サイバー防御）	7,8
		15週	期末試験	
		16週	試験返却・解説・復習	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	工学基礎	情報リテラシー	情報リテラシー	コンピュータの構成とオペレーティングシステム(OS)の役割を理解し、基本的な取扱いができる。	3	前1,前2,前8
				情報の真偽について、根拠に基づいて検討する方法を説明できる。	3	前6
				情報の適切な表現方法と伝達手段を選択し、情報の送受信を行うことができる。	3	前4,前6
				情報セキュリティの必要性を理解し、対策について説明できる。	3	前3,前10,前14
				情報セキュリティを支える暗号技術の基礎を説明できる。	3	前13
				情報や通信に関連する法令や規則等と、その必要性について説明できる。	3	前3,前11
				情報社会で生活する上でのマナー、モラルの重要性について説明できる。	3	前4,前6

評価割合

	試験	課題提出・ミニテスト・受講態度	合計
総合評価割合	40	60	100
基礎的能力	40	60	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0

新居浜工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	情報処理 1	
科目基礎情報							
科目番号	130103			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	電子制御工学科			対象学年	1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	矢野久雄：スラスラわかるC++ 第3版，翔泳社						
担当教員	占部 弘治						
到達目標							
1.【プログラム作成】ハードウェアとソフトウェア、プログラミングの役割と関係が理解でき、プログラムが作成できること。 2.【制御構造】制御構造の概念を理解し、分岐を行うための構文・繰り返しを行うための構文を使ってプログラムが記述できること。 3.【配列】配列の概念を理解し、これを用いてプログラムが記述できること。 4.【関数】関数を理解し、これを用いてプログラムが記述できること。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目 1.	ハードウェアとソフトウェア、プログラミングの役割と関係が理解でき、自在にプログラムが作成できること			ハードウェアとソフトウェア、プログラミングの役割と関係が理解でき、プログラムが作成できる		ハードウェアとソフトウェア、プログラミングの役割と関係が理解できず、プログラムが作成できない	
評価項目 2.	制御構造の概念を理解し、分岐を行うための構文・繰り返しを行うための構文を使ってプログラムが記述できる			制御構造の概念を理解し、分岐を行うための構文・繰り返しを行うための構文を理解している。		制御構造の概念を理解できず、分岐を行うための構文・繰り返しを行うための構文を使ってプログラムが記述できない	
評価項目 3.	配列の概念を理解し、これを用いてプログラムが記述できる			配列の概念を理解している。		配列の概念を理解できず、これを用いてプログラムが記述できない	
評価項目 4.	関数を理解し、これを用いてプログラムが記述できること。			関数を理解している。		関数を理解できず、これを用いてプログラムが記述できない	
学科の到達目標項目との関係							
専門知識 (B)							
教育方法等							
概要	コンピュータを用いてさまざまな装置を制御するために必要となるハードウェアとソフトウェアの基礎知識を学ぶとともに、プログラム作成のための基本的な知識を習得する。また、プログラミングの学習を通じてコンピュータのしくみや働きを理解する。						
授業の進め方・方法	まずはコンピュータのハードウェア、ソフトウェアに関する基礎知識・演習室でのプログラミングのやり方を身につける。その後、プログラムの基本的な動作を学習する。プログラミング演習は電気基礎演習と連動して行う。						
注意点	【事前学習】情報リテラシーで学習する演習室のPC、インターネットの取り扱いについては十分学習しておくことが必要である 【自己学習】授業時間外でも演習室が使える状況にあればいつでも、いつでも自主的に実施してよい。また自分のPCに実行環境を構築して実施してもかまわない。 【関連科目】情報リテラシー、電気基礎実習A、データサイエンス、デジタル回路、情報処理、情報基礎実習、電子計算機、情報工学						
本科目の区分							
Webシラバスと本校履修要覧の科目区分では表記が異なるので注意すること。 本科目は履修要覧(p.10)に記載する「④選択科目」である。							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	コンピュータの基本構成とソフトウェア		1.【プログラム作成】		
		2週	コンソール入出力と書式設定		1.【プログラム作成】		
		3週	データ型と算術演算子		1.【プログラム作成】		
		4週	分岐を行うための構文 (1)		2.【制御構造】		
		5週	分岐を行うための構文 (2)		2.【制御構造】		
		6週	繰り返しを行うための構文 (1)		2.【制御構造】		
		7週	中間試験				
		8週	中間試験返却・復習				
	2ndQ	9週	繰り返しを行うための構文 (2)		2.【制御構造】		
		10週	配列、配列と繰り返し		3.【配列】		
		11週	二次元配列		2.【制御構造】 3.【配列】		
		12週	関数(1)		4.【関数】		
		13週	関数(2)		4.【関数】		
		14週	ローカル変数とグローバル変数		1.【プログラム作成】 4.【関数】		
		15週	期末試験				
		16週	期末試験返却・復習				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験		小テスト		課題	合計	

総合評価割合	70	0	30	100
基礎的能力	0	0	0	0
専門的能力	70	0	30	100
分野横断的能力	0	0	0	0

新居浜工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	データサイエンス	
科目基礎情報							
科目番号	130106			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	電子制御工学科			対象学年	1		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	イチからしっかり学ぶ！ Office基礎と情報モラル（Microsoft365・Office2021対応）（noa出版）、K-SEC教材						
担当教員	占部 弘治						
到達目標							
1. 【重要性】 データサイエンス技術の重要性について理解すること。 2. 【利活用】 ビッグデータやA I 技術の利活用について説明できること。 3. 【ネットワーク】 ビッグデータの収集・蓄積に必要なとなるネットワークの基礎技術について理解すること。 4. 【表計算ソフト】 表計算ソフトを用い、簡単な計算やグラフを作成できること。 5. 【セキュリティ】 組織としての情報セキュリティ対策について理解すること。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目 1	データサイエンス技術の重要性について理解でき、実例を挙げることができる。		データサイエンス技術の重要性について理解できる。		データサイエンス技術の重要性について理解できない。		
評価項目 2	ビッグデータやA I 技術の利活用について具体的に説明できる。		ビッグデータやA I 技術の利活用について説明できる。		ビッグデータやA I 技術の利活用について説明できない。		
評価項目 3	ビッグデータの収集・蓄積に必要なとなるネットワーク技術について理解し、簡単に説明できる。		ビッグデータの収集・蓄積に必要なとなるネットワークの基礎技術について理解できる。		ビッグデータの収集・蓄積に必要なとなるネットワークの基礎技術について理解できない。		
評価項目 4	表計算ソフトを用い、計算やグラフを自由に作成できる。		表計算ソフトを用い、簡単な計算やグラフを作成できる。		表計算ソフトを用い、簡単な計算やグラフを作成できない。		
評価項目 5	組織としての情報セキュリティ対策について理解し、組織を守るための適切な行動ができる。		組織としての情報セキュリティ対策について理解できる。		組織としての情報セキュリティ対策について理解できない。		
学科の到達目標項目との関係							
工学基礎知識 (A) 教養 (D)							
教育方法等							
概要	情報機器やインターネットの普及により、膨大なデータが生成され蓄積されるようになっている。これらのビッグデータを有効活用するために、データを適切に収集、解析、可視化する技術（データサイエンス）が今後の社会では重要となる。 本科目では、今後のデジタル社会における基礎知識と言われるデータサイエンスの基礎を学ぶとともに、ビッグデータを収集するためのネットワーク技術、データを解析・可視化するための技術、データを適切に管理するためのセキュリティ技術に関する知識も学習する。						
授業の進め方・方法	ビッグデータの利活用のためのデータサイエンス技術の基礎について、最新情報などを交えながら学習を進める。また、ビッグデータを扱うために必要となる、ネットワーク・ソフトウェア・セキュリティについてもあわせて紹介する。 座学が中心となりますが、コンピュータを利用した演習やグループワークも実施するので、積極的に取り組んでください。						
注意点	事前学習：情報リテラシーの内容を復習し、しっかり理解しておいてください。 自己学習：授業時間外でも演習室を利用できるので、いつでも自主的に実施してください。 関連科目：情報リテラシー、確率統計						
本科目の区分							
Webシラバスと本校履修要覧の科目区分では表記が異なるので注意すること。 本科目は履修要覧(p.10)に記載する「④選択科目」である。							
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	データサイエンスとA I		1【重要性】、2【利活用】		
		2週	ビッグデータの収集・管理・可視化		2【利活用】		
		3週	コンピュータの利用形態（サーバ・クラウド）		3【ネットワーク】		
		4週	表計算ソフトの基礎 1		4【表計算ソフト】		
		5週	インターネット・I Pアドレス・W A NとL A N		3【ネットワーク】		
		6週	表計算ソフトの基礎 2		4【表計算ソフト】		
		7週	中間試験期間				
		8週	A I ・ビッグデータと応用分野 1		1【重要性】、2【利活用】		
	4thQ	9週	表計算ソフトの基礎 3		4【表計算ソフト】		
		10週	A I ・ビッグデータと応用分野 2		1【重要性】、2【利活用】		
		11週	表計算ソフトの応用		4【表計算ソフト】		
		12週	組織としての情報セキュリティ 情報格付け		5【セキュリティ】		
		13週	セキュリティポリシー アクセス制限		5【セキュリティ】		
		14週	リスク管理・インシデント対応		5【セキュリティ】		
		15週	期末試験				
		16週	試験返却・解説・復習				

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	工学基礎	情報リテラシー	情報リテラシー	社会の情報化の進展と課題について理解し説明できる。	3	後1,後2
				代表的な情報システムとその利用形態について説明できる。	3	後3
				情報を適切に収集・取得できる。	3	後2
				データベースの意義と概要について説明できる。	3	後2
				計算機を用いて数学的な処理を行うことができる。	3	後4,後6,後9,後11
				情報の適切な表現方法と伝達手段を選択し、情報の送受信を行うことができる。	3	後2
				情報通信ネットワークの仕組みや構成及び構成要素、プロトコルの役割や技術についての知識を持ち、社会における情報通信ネットワークの役割を説明できる。	3	後3,後5
				情報セキュリティの必要性を理解し、対策について説明できる。	3	後12
				情報セキュリティに基づいた情報へのアクセス方法を説明できる。	3	後13
				情報セキュリティを運用するための考え方と方法を説明できる。	3	後12,後13,後14
				データサイエンス・AI技術の概要を説明できる。	3	後1
				データサイエンス・AI技術が社会や日常生活における課題解決の有用なツールであり、様々な専門領域の知見と組み合わせることによって価値を創造するものであることを、活用事例をもとに説明できる。	3	後1,後8,後10
				データサイエンス・AI技術を活用する際に求められるモラルや倫理について理解し、データを守るために必要な事項を説明できる。	3	後2,後8,後10
				データサイエンス・AI技術の利活用に必要な基本的スキル（データの取得、可視化、分析）を使うことができる。	3	後4,後6,後9,後11
				自らの専門分野において、データサイエンス・AI技術と社会や日常生活との関わり、活用方法について説明できる。	3	後1,後2
評価割合						
			試験	課題	合計	
総合評価割合			60	40	100	
基礎的能力			60	40	100	
専門的能力			0	0	0	
分野横断的能力			0	0	0	

新居浜工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	電子基礎実習A	
科目基礎情報							
科目番号	130107			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	履修単位: 1.5		
開設学科	電子制御工学科			対象学年	1		
開設期	通年			週時間数	1.5		
教科書/教材	矢野久雄：スラスラわかるC++ 第3版，翔泳社						
担当教員	占部 弘治,永井 駿也						
到達目標							
1. 演習室のPCを用いて、C/C++のプログラムを作成・実行することができる 2. 選択処理・反復処理および変数・配列などのデータ構造を用いて、プログラムを作成することができる 3. コンピュータグラフィックスを用いて、様々な図形を描くことができる							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	自分でプログラミング環境を構築し、C/C++のプログラムを作成・実行することができる			演習室のPCを用いて、C/C++のプログラムを作成・実行することができる		演習室のPCを用いて、C/C++のプログラムを作成・実行することができない	
評価項目2	選択処理・反復処理および変数・配列などのデータ構造を用いて、プログラムを自在に作成することができ、改善することができる			選択処理・反復処理および変数・配列などのデータ構造を用いて、プログラムを作成することができる		選択処理・反復処理および変数・配列などのデータ構造を用いて、プログラムを作成することができない	
評価項目3	コンピュータグラフィックスを用いて、自在に図形を描くことができる			コンピュータグラフィックスを用いて、図形を描くことができる		コンピュータグラフィックスを用いて、図形を描くことができない	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	プログラムを自分の手で作成し、それがうまく動作した時の喜びと、プログラムの有用性を体験するためことを通じて、プログラミングに興味を持たせ、専門科目や実験・実習への学習意欲を高めさせる。そのために演習課題に取り組み、プログラミング能力の定着とPCの取り扱いの習熟を目標とする。						
授業の進め方・方法	クラスを半分に分け、電子基礎実習Bと週交代で実施する。演習課題はLMS（WebClass）から出題される。演習課題のプログラムはその演習の回に必ず作成し、実行すること。情報処理1と連動した課題が提出されるので、情報処理1の教科書・配布資料も用意すること。						
注意点	【事前学習】情報リテラシーで学習する演習室のPC、インターネットの取り扱いについては十分学習しておくことが必要である。また情報処理1の授業内容とは連動しているので、理解を確実にしておいて臨むこと 【自己学習】授業時間外でも演習室が使える状況にあればいつでも、いつでも自主的に実施してよい。また自分のPCに実行環境を構築して実施してもかまわない。 【関連科目】情報リテラシー、データサイエンス、デジタル回路、情報処理、情報基礎実習、電子計算機、情報工学						
本科目の区分							
Webシラバスと本校履修要覧の科目区分では表記が異なるので注意すること。 本科目は履修要覧(p.10)に記載する「①必修科目」である。							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	演習室におけるC/C++のプログラミングについて		1,2		
		2週	プログラミング演習		1,2		
		3週	プログラミング演習		1,2		
		4週	プログラミング演習		1,2		
		5週	プログラミング演習		1,2		
		6週	プログラミング演習		1,2		
		7週	プログラミング演習		1,2		
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
後期	3rdQ	1週	プログラミング演習		1,2		
		2週	プログラミング演習		1,2		
		3週	プログラミング演習		1,2		
		4週	コンピュータグラフィックスを用いたプログラミング演習		1,3		
		5週	コンピュータグラフィックスを用いたプログラミング演習		1,3		

		6週	コンピュータグラフィックスを用いたプログラミング演習	1,3
		7週	まとめ	1,2,3
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	工学基礎	情報リテラシー	情報リテラシー	基礎的なプログラムを作成できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,後1,後2,後3,後7

評価割合

		実習	合計
総合評価割合		100	100
基礎的能力		0	0
専門的能力		100	100
分野横断的能力		0	0

新居浜工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	電子基礎実習B	
科目基礎情報							
科目番号	130108			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	実習			単位の種別と単位数	履修単位: 1.5		
開設学科	電子制御工学科			対象学年	1		
開設期	通年			週時間数	1.5		
教科書/教材	新居浜高専PICマイコン学習キットVer.3完全ガイド (技術評論社) 新居浜高専PICマイコン学習キットVer.3 (ACアダプタ付)						
担当教員	松友 真哉,松木 剛志,眞鍋 知久						
到達目標							
1. ハンダ付けの仕方について体得すること。 2. 電子部品についての知識を身につけること。 3. 電子工作の手順を体得すること。 4. マイコンのプログラミング方法を体得すること。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	ハンダ付けの原理を理解してハンダ付けができる。			ハンダ付けができる。		ハンダ付けができない。	
評価項目2	電子部品について電子回路の製作に必要な知識が身についている。			電子部品について知識が身についている。		電子部品について知識が身についていない。	
評価項目3	電子工作の手順を理解して作業ができる。			電子工作の作業ができる。		電子工作の作業ができない。	
評価項目4	プログラムを理解した上でマイコンに書き込み実行できる。			プログラムをマイコンに書き込み実行できる。		プログラムをマイコンに書き込むことができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	電気回路・電子回路を自分の手で組立てて、それがうまく動作した時の喜びと、電気の働きの不思議さを体験することを通じて、電子工学に興味を持たせ、専門科目、自然科学系科目への学習意欲を高めさせる。 エレクトロニクス技術に対する関心と興味および電子工作の基本的技術を身に付けることを目標とする。						
授業の進め方・方法	電子基礎実習Aと週交代で実施するので、忘れ物の無いようにすること。						
注意点	電子基礎実習Aと週交代で実施するので、忘れ物の無いようにすること電子工学に興味を抱くキッカケをつかんでもらうことが目的なので、製作を通して、おもしろさを発見して欲しい。どうしてこんな動作ができるのか、という不思議に目を向けて欲しい。						
本科目の区分							
Webシラバスと本校履修要覧の科目区分では表記が異なるので注意すること。 本科目は履修要覧(p.9)に記載する「①必修科目」である。							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーションとはんだ付けの練習		1,2,3		
		2週	ちかちかダイオード		1,2,3		
		3週	2進数の数え方		1,2,3		
		4週	電子ピアノ・タッチアラーム・電子すず虫		1,2,3		
		5週	イリュージョンライト・キャンドルライト		1,2,3		
		6週	ミニテルミン・目覚まし鳥・音スイッチ		1,2,3		
		7週	A/D 変換・RC サーボ・タイマー・時計		1,2,3		
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
後期	3rdQ	1週	マイコンのプログラミング実習 (1)		4		
		2週	マイコンのプログラミング実習 (2)		4		
		3週	マイコンのプログラミング実習 (3)		4		
		4週	マイコンのプログラミング実習 (4)		4		
		5週	マイコンのプログラミング実習 (5)		4		
		6週	マイコンのプログラミング実習 (6)		4		
		7週	マイコンのプログラミング実習 (7)		4		
		8週					
	4thQ	9週					
		10週					

		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	工学基礎	情報リテラシー	情報リテラシー	アナログ情報とデジタル情報の違いと、コンピュータ内におけるデータ(数値、文字等)の表現方法について説明できる。	3	前2,前7,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7
				基礎的なプログラムを作成できる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7
専門的能力	分野別の工学実験・実習能力	電気・電子系分野（実験・実習能力）	電気・電子系分野（実験・実習能力）	実験装置・器具・情報機器等を安全に正しく利用できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7
				マイコンやPCを用いた制御回路の使用法を習得する。	2	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7

評価割合

	実習	合計
総合評価割合	100	100
基礎的能力	50	50
専門的能力	50	50
分野横断的能力	0	0